

これまでの策定経過（案件と主な意見）H20年4月～9月

時 期	計画策定懇話会 / 共同事務局（堺市 & 堺市社協）	
H20 5 月	第 1 回 懇話会全体会（5 / 13） 策定懇話会の立上げ・メンバー紹介・座長選任 現行計画の概要・最近の地域福祉に関する動向、策定テーマ・スケジュール等の説明 準備会議の取組み報告、アンケート結果等の概要説明 部会作業（メンバー自己紹介、部会長・副部会長の選任等）	
	新たな協働づくり部会	地域ケアのシステムづくり部会
6 月	第 2 回 懇話会（6 / 17） アンケート結果等の概要と検討課題 計画策定の方向と計画に盛り込む事項 地域福祉のイメージ <ul style="list-style-type: none"> ・市民ができること、地域でなければ見えないことを協働してやっていくこと ・校区の中での色々な助け合い ・制度の谷間にある人の継続的な支援 ・健康な人が豊かに暮らせる魅力あるまちにしていくこと 地域福祉をすすめるうえで必要なことや課題 <ul style="list-style-type: none"> ・目的や価値の共有のための議論 ・人口構成の変化の認識 ・区や校区単位で考えていくこと ・自治会に入らない人をどう巻き込むか ・新旧住民の垣根、NPO と地域の関わり ・協働のイメージと協働をすすめるうえで必要なこと ・行政の下請けでなく、みんなで一緒につくる協働 ・情報の共有とリーダーの育成 ・目的・理念・価値観の共有 ・地域福祉や協働に関して取り組んでいること ・民と民との協働のあり方についての意見交流をすすめている ・区で公民協働まちづくり指針をつくり、協働の推進を行う ・一人ひとりのニーズに対応するためには協働が必要 第 2 次計画について <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケアのシステムづくりの計画とし、5 年間で生活レベルの福祉を徹底できるしくみを整えるための協働考えればよい 	第 2 回 懇話会（6 / 18） アンケート結果等の概要と検討課題 計画策定の方向と計画に盛り込む事項 地域福祉のイメージ <ul style="list-style-type: none"> ・すべての人が地域で暮らし続けるうえでの生活課題を身近なところで解決できるしくみをつくっていくこと ・みんなで参加して自分たちでできることをしていくよう考えていくこと 地域福祉・地域ケアをすすめるうえで必要なこと <ul style="list-style-type: none"> ・小さなエリアで支えあえるネットワークをつくること ・集まれる機能と情報の共有 ・自分のこととして受け止める啓発 ・互いに持っているものを出し合う ・エリアのネットワークとテーマのネットワークがつながること ・個々のケースの集約とノウハウを蓄積・政策提言するシステム 地域福祉・地域ケアをすすめるうえでの課題 <ul style="list-style-type: none"> ・自治会に加入していない人の情報把握 ・自治会離れ ・地域住民の関心が低い ・ネットワークが有効に機能すること ・地域福祉や地域ケアに関して取り組んでいること ・在宅介護支援センターが集まり、地域包括ケアに求められるニーズを検討した ・地域と医療機関との情報共有のためのシステムづくりの検討

7月	<p>第3回 懇話会 (7/22)</p> <p>地域福祉のイメージについての前回部会の意見の要点について 計画に盛り込む内容等に関する意見シートの集約と要点について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理想だけでなく具体的なことが見える形でまとめてほしい ・団塊世代の、特に男性の参加の場づくりが必要 ・行政と地域が情報交換し協議できる場が必要 ・ボランティアにも無償ばかりでなく、手当を出すことが必要 ・引きこもりの人の参加を促すようなリーダーの養成が必要 ・気軽に参加できる「場」、市民に「公」の意識を持ってもらうことが必要 ・協働がすすんでいるかを市民がチェックするしつみを計画に盛り込むことが必要 ・つくる段階からの協働のプロセスに市民を巻き込むという考え方 ・「新たな公」を計画でどう位置付けていくのかのイメージが必要 ・お金をかけなくてもできることからはじめていくことで連携できてくる ・人には要求するが、自分の義務は果たさない社会を直していきたい ・何でも地域にしてもらうのではなく、個人も最低限すべきことを行うことが必要 ・区役所への予算や意思決定権の付与が必要 ・まちづくり全体を考える部署が必要 	<p>第3回 懇話会 (7/23)</p> <p>地域福祉のイメージについての前回部会の意見の要点について 計画に盛り込む内容等に関する意見シートの集約と要点について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域では障害のある人の問題が見えにくい ・障害の相談機関自体も地域とのかかわりが薄い ・障害分野と高齢分野と一緒に話し合う場が必要 ・必要な情報が必要な人に伝わらないという問題、情報がありすぎる問題 ・情報があってもつなぐ人がいないと生きてこない ・ニーズ把握や相談についても情報をどう考えるかがベースになる ・情報提供を行うことで、ニーズ把握や相談支援、サービス提供が副次的にできてくるのではないかと ・堺市は当事者組織がすすんでいるのが特徴であるので、活かしていきたい ・声かけや見守りなどの地域福祉活動に当事者団体の力を入れてやっていければ堺らしいしくみになる ・全体の話と各論を分けること、対象別に主語をつけて整理することが必要 ・地域福祉計画は、縦割りでは考えていたものを地域に落とし込んで包括的に考える計画であってほしい
8月	<p>第4回 懇話会 (8/29)</p> <p>計画の構成案 地域福祉推進のために取り組むこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気なシニア層が増えてくる中、従来の福祉型のみでアプローチするとミスマッチが起こるのではないかと ・人材とお金の両面からのまちづくりの考え方がないと地域福祉はすすまない ・市民が自分たちでしないとイケないと思うようにどうしていくかである ・区役所ではボランティアに対する意識はまだ薄い、まちづくりや災害の問題でもボランティアは今後大きな力になるので、しっかり位置づけてほしい ・企画・決定、評価・見直しについての参加と協働をどうすすめていくのか考えることが必要 ・若い人の関わりを考えていくうえで、企業の参加も考えていけば接点を持てる ・「～する」の主語をどうしていくか 	<p>第4回 懇話会 (8/27)</p> <p>計画の構成案 地域福祉推進のために取り組むこと 地域ケアシステムとCSWについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケアのシステムは、下からのボトムアップでないといけない ・肩書きや権限のないCSWが、地域の課題等にどこまで方向付けできるのか ・CSWは地域のコーディネーターであり、ファシリテーターでもあるなら、かなりの力量を求められる ・会議ありきにならないよう、そこで何をするかを決めておろすことが必要 ・既存のものを大事にすると同時に地域性も大事にしてほしい ・情報に人が関わるといった切り口は温かくてよい ・主語は誰なのか

9月	<p>第5回 懇話会 (9/19)</p> <p>計画の流れ(ストーリー)について 先導的に取り組むプロジェクト 社協が重点的に取り組むこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市と社協が一緒につくる意味を強調して書くことと、両者の計画の関係性を示すような図を入れてほしい ・シニア市民大学は、高齢者の力を生かすという視点での協働プロジェクトとしてすすめてほしい ・CSW 事業については、その人が協働の理念をどれだけ持って動くかで地域の活性化が左右されるように思う ・地域で自治連・校区福祉委員会・民生委員会が必ず連携するという文言を入れてほしい ・地域福祉の考え方を整理し、地域福祉をすすめるために「参加と協働」が必要であり、同時に地域で生活していくためのしくみが必要という柱で書く方がいいのではないか ・「市民・団体」が自分達のことという自覚ができない文章なので、自分の問題として地域に関わってもらおうということが伝わる必要がある ・自分達がやらないと地域は変わらないということも書き込んでほしい ・有償の活動を行う NPO 法人が必要で、コミュニティビジネスにつながるということも書いてほしい ・住民がすべきことはたくさん書かれているが、障害者の在宅支援をすすめる受け皿がないと協働にはなりえない ・区民プラザが夜に使えるようにしてほしい ・社協の認知度を高めるために、住民賛助会費募集に自治会の協力を得て取り組むことも書けばよいのではないか ・企業がどう貢献できるかという提起があってもよい ・市も社協も各区の計画はどうしていくのか ・区に予算と権限をおろしてほしい ・自治会への加入の促進を市としても考えてほしい 	<p>第5回 懇話会 (9/24)</p> <p>計画の流れ(ストーリー)について 先導的に取り組むプロジェクト 社協が重点的に取り組むこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CSW の関係で会議の再構築という表現があるが、すでに色々なネットワーク会議があるなか、会議の設置が目的のような書き方は疑問だ ・会議のイメージをわかりやすくし、地域のニーズに応じて検討できるようにすべきだ ・会議をつくるのではなく、何をやるかが見えるものにしないといけない ・会議で取り上げる内容として、個別ケースの対応は切り離さないといけないのではないか ・CSW や地域を支援するしくみづくりが必要 ・会議をどこが責任を持ってまとめるかを書かないと、地域に任されたのでは形だけになってしまう ・課題を CSW にわたして終わりではなく、みんなで支えるしくみということがもう少しわかりやすい方がよい ・CSW は付き合いのプロとして、助けてもらえれば嬉しい ・CSW だけをつなぎ役にするのでなく、地域にある色々な力を伸ばせるようにすべきだ ・障害者が地域で生きていくには近所との付き合いが大事という発想の転換を専門職に投げてほしい ・権利擁護では、地域福祉権利擁護事業や成年後見のことだけでなく、ものを言えない人たちの人権を守るものということを入れてほしい、虐待という言葉も入れてほしい ・横文字はさけてわかりやすい言葉で書いてほしい ・地域包括支援センターの関係では、消費生活のことも掘り下げて記載した方がよい ・地域包括支援センターや在宅介護支援センターについて、再編ありきという記載は疑問である ・社協をもっと強化してほしい ・社協のキャップハンディ事業には、知的や精神の障害者のことも入れてほしい
----	---	--

懇話会でいただいた意見のまとめ

【計画全般】

- ・理想だけでなく具体的なことが見える形でまとめてほしい
- ・横文字はさけてわかりやすい言葉で書いてほしい
- ・全体の話と各論を分けること、対象別に主語をつけて整理することが必要
- ・地域福祉計画は、縦割りで考えていたもの地域に落とし込んで包括的に考える計画であってほしい
- ・地域福祉の考え方を整理し、地域福祉をすすめるために「参加と協働」が必要であり、同時に地域で生活していくためのしくみが必要という柱で書いた方がよい
- ・元気なシニア層が増えてくる中、従来の福祉型のみでアプローチするとミスマッチが起こるのではないか
- ・人材とお金の両面からのまちづくりの考え方がないと地域福祉はすすまない
- ・市と社協が一緒につくる意味を強調して書くことと、両者の計画の関係性を示すような図を入れてほしい

わかりやすさ・
具体性・包括的

【意識】

- ・市民に「公」の意識を持ってもらうことが必要
- ・人には要求するが、自分の義務は果たさない社会を直していきたい
- ・何でも地域にしてもらうのではなく、個人も最低限すべきことを行うことが必要
- ・市民が自分たちでしないといけなと思うようにどうしていくかである
- ・自分達がやらないと地域は変わらないということも書き込んでほしい
- ・「市民・団体」が自分達のことという自覚ができない文章なので、自分の問題として地域に関わってもらおうということが伝わる必要がある
- ・お金をかけなくてもできることからはじめていくことで連携できてくる

自分達の問題
「公」の意識

【協働・参加】

- ・団塊世代の、特に男性の参加の場づくりが必要
- ・気軽に参加できる「場」が必要
- ・行政と地域が情報交換し協議できる場が必要
- ・企画・決定・評価・見直しについての参加と協働をどうすすめていくのか考えることが必要
- ・つくる段階からの協働のプロセスに市民を巻き込むという考え方が必要
- ・協働がすすんでいるかを市民がチェックするしくみを計画に盛り込むことが必要
- ・地域で自治連・校区福祉委員会・民生委員会が必ず連携するという文言を入れてほしい
- ・住民がすべきことはたくさん書かれているが、障害者の在宅支援をすすめる受け皿がないと協働にはなりえない

参加の「場」
企画段階からの協働
市民のチェック

【ボランティア】

- ・ボランティアにも無償ばかりでなく、手当を出すことが必要
- ・区役所ではボランティアに対する意識がまだ薄いですが、まちづくりや災害の問題でもボランティアは今後大きな力になるので、しっかり位置づけてほしい

有償・しっかり位置付ける

【情報】

- ・必要な情報が必要な人に伝わらないという問題、**情報がありすぎる問題**
- ・情報があってもつなぐ人がいないと生きてこない
- ・人が関わるという切り口は温かくてよい
- ・ニーズ把握や相談についても情報をどう考えるかがベースになる
- ・情報提供を行うことで、ニーズ把握や相談支援、サービス提供が副次的にできてくるのではないか

「情報」がベース
「人」が関わる、つなぐ

【CSW】

- ・肩書きや権限のないCSWが、地域の課題等にどこまで方向付けできるのか
- ・CSWは地域のコーディネーターであり、ファシリテーターでもあるなら、かなりの力量を求められる
- ・CSW事業については、その人が協働の理念をどれだけ持って動くかで地域の活性化が左右される
- ・CSWや地域を支援するしくみづくりが必要
- ・課題をCSWに渡して終わりではなく、みんなで支えるしくみということがもう少しわかりやすい方がよい
- ・CSWだけをつなぎ役にするのでなく、地域にある色々な力を伸ばせるようにすべきだ
- ・CSWは付き合いのプロとして、助けてもらえれば嬉しい

力量を高める
みんなで支える

【地域ケアシステム】

- ・地域ケアのシステムは、**下からのボトムアップ**でないといけない
- ・会議ありきにならないよう、**そこで何をするかを決めておろすことが必要**
- ・既存のものを大事にすると同時に**地域性も大事**にしてほしい
- ・会議のイメージをわかりやすくし、地域のニーズに応じて検討できるようにすべきだ
- ・会議を**どこが責任を持ってまとめるかを書かないと**、地域に任せられたのでは形だけになってしまう
- ・会議で取り上げる内容として、個別ケースの対応は切り離さないといけないのではないか

ボトムアップのしくみ
目的・役割・責任を明確に
既存のものや地域性を
生かす

【障害者・権利擁護】

- ・地域では障害のある人の問題が見えにくい
- ・障害の相談機関自体も地域との**かかわりが薄い**
- ・障害分野と高齢分野が一緒に話し合う場が必要
- ・障害者が地域で生きていくには**近所との付き合いが大事**という発想の転換を専門職に投げてほしい
- ・権利擁護では、地域福祉権利擁護事業や成年後見のことだけでなく、**自ら権利を主張しにくい人たちの人権を守るもの**ということを入れてほしい、虐待という言葉も入れてほしい

地域との関わり
人権を守る

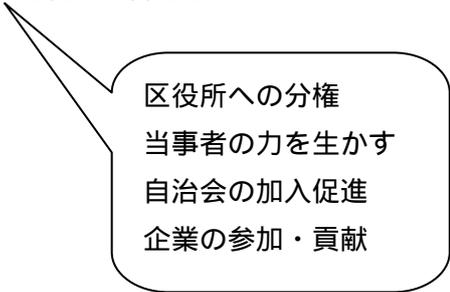
【社協】

- ・社協をもっと強化してほしい
- ・社協の認知度を高めるために、住民賛助会費募集に自治会の協力を得て取り組むことも書けばよい
- ・社協のキャップハンディ事業には、知的や精神の障害者のことも入れてほしい

社協の強化
認知度を高める

【その他】

- ・区役所への予算や意思決定権の付与が必要
- ・まちづくり全体を考える部署が必要
- ・堺市は当事者組織がすすんでいるのが特徴であるので、活かしていきたい
- ・声かけや見守りなどの地域福祉活動に当事者団体の力を入れてやっていければ堺らしいしくみになる
- ・有償の活動を行う NPO 法人が必要で、コミュニティビジネスにつながるということも書いてほしい
- ・自治会への加入の促進を市としても考えてほしい
- ・地域包括支援センターの関係では、消費生活のことも掘り下げて記載した方がよい
- ・シニア市民大学は、高齢者の力を生かすという視点での協働プロジェクトとしてすすめてほしい
- ・若い人の関わりを考えていくうえで、企業の参加も考えていけば接点を持てる
- ・企業がどう貢献できるかという提起があってもよい



区役所への分権
当事者の力を生かす
自治会の加入促進
企業の参加・貢献